

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名	江の島保育園
活動日	2025年7月2日 7月9日 7月16日 7月23日
クラス名（年齢）	かりん組（2歳児）
年間テーマ	感覚

活動のテーマ「 感触① 」

〈テーマの設定理由〉

自由遊びの中で日常的に水や砂あそび、片栗粉や小麦粉を使用した粘土を行っており、子どもたちは興味を示して取り組んでいる。夏の季節を感じながら感触を確かめ、違いに気づき、さらに興味関心を深めていけるよう設定した。

1. 活動スケジュール

7/2 7/9 7/16 7/23に活動を実施する

- ・テラスに水や道具を用意し子ども自身が手で触り感触を確かめる様子を見守る。
- ・「触るとどんな感じ？」等の問いかけをしながら子どもの反応をよく観察し共感していく。
- ・子どもが水の感触を楽しみ探求している姿を写真におさめる。
- ・月に2回クラス会議を行い子どもの遊びの様子や反応、気づきを共有する。
- ・活動内容の成果と評価を写真と共に記録に残す。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉

水 タライ

魚 スポンジ ギャル ボウル コップ スプーン お皿 ソフトバケツ

シャボン玉、水遊びハンドスピナー、パーテーション（着替え時）

〈環境設定〉

テラスにて水をタライに入れ数か所に設定する。

それぞれのタライの中や隣に魚類、スプーン、ギャル、バケツを用意する。

子ども一人ひとりが水に触れるため、タライの間隔を空けて設定する。

また十分な道具の量を用意する。

3. 探求活動の実践

<活動の内容>

- 子どもが好きな道具を手に取り、水に触れる。足や手、体、頭に水をかける。
- 様々な大きさの容器に、スプーンやカップを使いすくう。
- 容器からバケツに移し替える。あふれる、足りない等、水の量を確認する。
- 魚の遊具をタライに入れる。浮かせる、すくう、すくった魚をバケツに入れる。
- 水の入った容器を運ぶ、重さに気付く。
- 大きなタライの中の水をかき混ぜる。水の動きを見る。
- ザルですくう。穴から流れ出る水を見る、触る。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- 「触ってみてどう？」と問いかける。「ツメタイ」と言葉にしたり。表情で笑顔を見せる
- 子どもがスプーンですくった水を足にかける。「気持ちいい？」と問うとうなずく。保育士の足にもかけてくれ「気持ちいいね」と共感する。
- 手ですくおうとするが流れ出る様子を見る。「なくなっちゃったね どこかな？」と問うともう1度手ですくう。
- 魚の遊具を水の中に入れ「泳いでる」と気付く。保育者が水をかき混ぜると、魚の動きも速くなり手で捕まえようとする、スプーンですくう。
- バケツに入れた水をひっくり返す。「体にかけてみたら？」と声を掛けると、胸や顔にかける。全身をバタバタさせ、冷たさを表す。
- バケツにいっぱい水を入れ持つが持ち上がらない。「ちょっと多いかも。どうしようか」と聞くと水を減らす。持てる事に気付けた。
- 水面を叩く。「いい音だね」と伝え、音に耳を傾け、音があることに気付く。

※写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- 水には6月から慣れてきていたため、子どもが能動的に水に触れる姿があった。
- 水をかき混ぜる、自分の身体（足や腕、胸、頭）にかける動きが多く見られ、水の感覚遊びと共に、運動機能の発達も促すことができた。
- タライの水が減ったことに子どもが気づき、他のタライから水をすくって運び足す行為があった。
- 最初の準備の時の水から、日が差し水温が上がった。途中で水をつぎ足した。「ツメタイ」と反応する姿もあった。ややぬるい水、冷水との違いも知ることができた。
- 魚すくいでは、知っている魚の名前を言う、数を数える等思考していた。
- 子どもが水の感覚を好み喜び、全身を使って感覚することができた。
子どもの気づきや発信していることに、保育士が気づき、共感したり、一緒に楽しむ、ことが大切だと感じた。